

科目名	基礎演習Ⅳ B					単位	2.0
担当教員	眞有 澄香						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	4106

●授業のテーマ

日本近現代文学の講読と演習

●到達目標

日本近代文学について関心を持つ。また、問題意識を持って、芥川作品の講読に取り組むことができる。さらに、近代文学全般についても関心を広げ、他の作家・作品についても興味を持つことができる。

●学習内容(授業概要)

ひたすら題材と文体との見事な結合を示す短編小説を書き続けた芥川龍之介を取り上げる。芥川はその衝撃的な自殺まで、悲劇的な進展を見せた。それは、ひとたび完成した自己の美学の否定の道であり、その内実は激しい苛立ちと絶望的な静けさが微妙に交錯する作品群となって現れている。芥川の死は大正美学の終焉であり、近代の終焉とも言われるが、近代知識人の代表でもあった芥川文学の文芸性を作品の精緻な読みから考察し、作家と作品、それらを取り巻く社会的な背景などを通して、資料調査・レジュメの作成方法・発表方法など、日本近現代文学研究の基礎を学ぶ。

●学習内容(授業計画)

1. 芥川龍之介の人と作品について
2. 芥川龍之介の年譜を読む
3. 日本近現代文学史の流れを掴む
4. 芥川龍之介研究の現在について
5. 資料や先行研究の調査方法について
6. レジュメ作成と発表の仕方について
7. 「鼻」を読む
8. 「地獄変」を読む
9. 「奉教人の死」を読む
10. 「或る阿呆の一生」を読む
11. レジュメの作成と発表—「鼻」
12. レジュメの作成と発表—「地獄変」
13. レジュメの作成と発表—「奉教人の死」
14. レジュメの作成と発表—「或る阿呆の一生」
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

授業前には指定された作品を精読しておくこと。授業後には、作品の問題点や感想をまとめておくこと。

●成績評価方法・基準

受講態度(20%)、最終講義日のレポート(80%)によって総合的に評価する。

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：「ちくま日本文学 002 芥川龍之介」（文庫版）、出版社：筑摩書房、販売先：生協

●参考文献／その他

授業時に適宜指示する。また、必要資料などは、授業時に配布する。

●履修上の注意

指示された作品を精読し、予習して授業に臨むこと。また、演習形式なので授業への取り組みも重視する。